

[成果情報名] 食味、形状に優れるイチゴ新品種「いばらキッス」（仮称）

[要約] 「いばらキッス」の糖度は、「とちおとめ」よりやや高く、酸度は「とちおとめ」と同等で、「甘さ」と「酸味」のバランスが良く食味に優れる。また乱形果の発生が少なく、形状が良い。収量は「とちおとめ」よりやや多い。

[キーワード] イチゴ、育種、新品種、糖度、果形

[代表連絡先] 電話 0299-45-8330

[研究所名] 茨城県農業総合センター生物工学研究所・園芸研究所

[分類] 普及成果情報（平成 22 年度）

## [背景・ねらい]

茨城県のイチゴは、作付面積 283ha、産出額 76 億円（全国 8 位）と冬季の重要な野菜である。本県の栽培品種の大部分を栃木県育成の「とちおとめ」が占めているが、他産地では県独自のイチゴ品種を育成し、ブランド化により有利販売につなげている。そこで県内産地の活性化を図るため、品質が優れ、安定生産が可能な本県オリジナルのイチゴ品種を育成する。

## [成果の内容・特徴]

1. 「いばらキッス」は、「とちおとめ」を種子親、「ひたち 1 号」を花粉親とする交配組合せの中から、品質や食味を重点に選抜を進めた系統である（図 1）。
2. 果実は「とちおとめ」より長めの円錐形であり、果皮色は濃赤色で光沢が強い。果肉色は「とちおとめ」と同様の鮮赤であるが、果心の色は「とちおとめ」より淡く、淡赤である（図 2、表 1）。
3. 果実硬度は「とちおとめ」よりやや低い。糖度は「とちおとめ」より高く、酸度は「とちおとめ」と同等である（表 1）。
4. 収量は「とちおとめ」よりやや多く、中休みが少ないため収穫期間を通して安定している。一果重は「とちおとめ」より大きい。乱形果の発生は「とちおとめ」より少ない（表 2、図 3）。
5. 生産者評価は、「とちおとめ」と比べて果実の形状、食味が良い、草勢が強いが、収穫始期がやや遅く、果実の硬さがやや軟らかいという評価である（表 3）。

## [普及のための参考情報]

1. 普及対象 茨城県内生産者
2. 普及予定地域・普及予定面積 茨城県内 70ha

## [具体的データ]

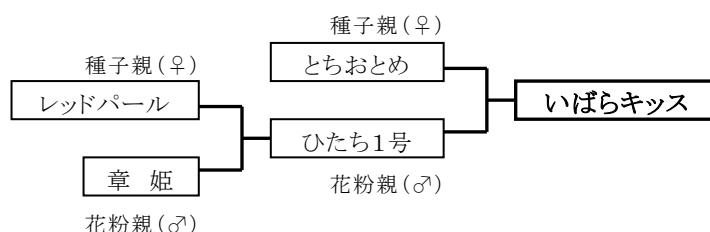


図 1 「いばらキッス」の系譜



図 2 「いばらキッス」の果実

表1 果実の外観及び果実品質の比較

品種名	果形 <sup>1)</sup>	果皮色 <sup>1)</sup>	果実の 光沢 <sup>1)</sup>	果肉色 <sup>1)</sup>	果心の 色 <sup>1)</sup>	硬度 <sup>2,3)</sup> (kg)	糖度 <sup>2)</sup> (Brix%)	酸度 <sup>2)</sup> (%)
いばらキッス	長めの円錐	濃赤	強	鮮赤	淡赤	0.49	10.3	0.75
とちおとめ	円錐	鮮赤	強	鮮赤	赤	0.51	9.9	0.74

<sup>1)</sup>平成20年度調査、<sup>2)</sup>平成18年度～平成21年度の11月から4月までの平均値、<sup>3)</sup>果実硬度計・円柱形Φ5mmプランジャーの貫入抵抗値

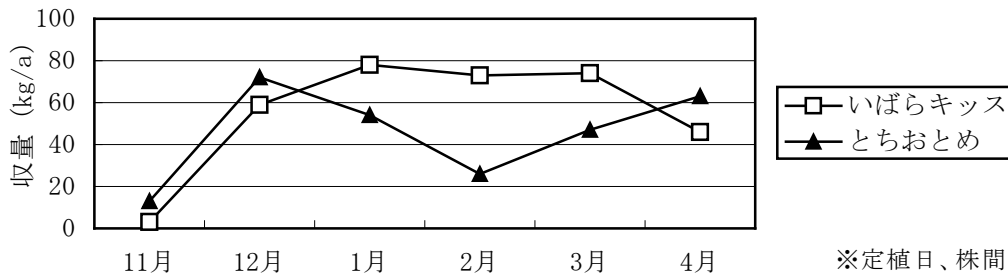
表2 開花・収穫開始日、収量、変形果発生率の比較（平成18年度～平成21年度平均）

品種名	開花 始期 <sup>1)</sup> (月/日)	収穫 始期 <sup>1)</sup> (月/日)	収穫 果数 <sup>2)</sup> (個/株)	収量 <sup>2)</sup> (kg/a)	1果重 <sup>3)</sup> (g)	大果率 <sup>4)</sup> (%)	乱形果 発生率 (%)	奇形果 発生率 (%)
いばらキッス	11/6	12/14	30.1	331	13.7	36.1	4.7	5.5
とちおとめ	10/30	12/5	27.4	281	12.0	28.0	6.7	4.1

定植日；平成18年度：9月13日、平成19、20年度：9月14日、平成21年度：9月17日 株間23cm

収穫期間；11月～4月、元肥N；平成18、19年度：16kg/10a、平成20、21年度：15kg/10a

<sup>1)</sup>株毎の開花・収穫開始日の平均、<sup>2)</sup>7g以上の果実、<sup>3)</sup>収穫全果実平均、<sup>4)</sup>15g以上の果実割合



※定植日、株間、施肥量は表2と同

<sup>1)</sup>7g以上の果実

図3 月別収量<sup>1)</sup>の推移（平成18年度～平成21年度平均）

表3 「いばらキッス」を試作した生産者の評価（平成20年度）

収穫 始期	第二果房 の発生	着果数	果実の 大きさ	果実の 形状	果実 の色	果実の 硬さ	食味	草勢	病気の 発生	収量
2.3	3.3	3.8	2.8	4.5	4.0	2.3	3.8	4.0	3.8	3.0

生産者4名による「とちおとめ」を3とした場合の相対評価

収穫始期；1:遅い～5:早い、第二果房の発生・果実の形状・食味；1:悪い～5:良い、着果数・収量；

1:少ない～5:多い、果実の大きさ；1:小さい～5:大きい、果実の色；1:薄い～5:濃い、果実の硬さ；

1:軟らかい～5:硬い、草勢；1:弱い～5:強い、病気の発生；1:多い～5:少ない

(松本雄一)

[その他]

課題名：野菜新品種育成および地域適応性検定試験・イチゴ新品種の育成

予算区分：県単

研究期間：平成6年～

研究担当者：松本雄一、山邊あずさ、宮城慎、植田稔宏

発表論文等：出願公表（平成22年4月22日）—出願番号第24622号